



トピックス…③

新たな酪肉近における酪農経営モデル

農林水産省は11月28日、平成26年度第7回食料・農業・農村政策審議会畜産部会を開き、酪肉近代化基本方針の具体的な策定に着手した。部会では、酪肉近代化基本方針で定める新たな酪農経営モデルの考え方を提示した。

1. 経営モデル策定の基本方針

高齢者の離農や後継者不足、配合飼料価格の上昇、国際環境の変化等、わが国酪農をめぐる情勢が大きく変化している中、生産基盤の弱体化が懸念されている。それぞれの経営体においては、生産コストの削減や販売額の増加等に資する取組を効率的に組み合わせることにより、収益性の高い経営へ転換していくことが喫緊の課題となっている。このため、既に実現されている先進事例を参考に、収益性を向上させる様々な取組を組み入れた酪農の経営類型を設定し、それぞれの類型ごとに経営指標を示す。これにより、10年後を目途として、競争力の高い酪農経営モデルを描く。

収益性向上のための取組としては、飼養規模の拡大、国産飼料の生産・利用拡大、放牧の活用、省力化機械の導入、外部化支援組織の活用、性判別技術や受精卵移植技術の活用等により「生産コストの削減・安定化」を目指す。また、飼養規模の拡大、飼養管理の改善、6次産業化等により「販売額の増加」を目指す。それぞれの類型ごとに示す指標とは、経営形態、飼養頭数、飼養管理・飼料生産の外部化状況等の「経営概要」、1頭当たり乳量、飼料自給率、生産コスト、所得、労働時間等の「生産性指標」である。

2. 5つの土地条件別経営類型

酪農経営については、生産コストの約5割を占める飼料費が増加傾向で推移するとともに、労働時間については、搾乳牛1頭当たりでは減少しているものの、規模拡大に伴い経営全体では上昇傾向にある。このため、土地条件の制約の大小に分けた上で、目指すべき酪農経営モデルとして、以下の取組等を組み入れた5つの経営類型を設定する。

- ・コントラクター等を活用した飼料生産・調製の外部化、搾乳ロボット等の機械導入による省力化・効率化と、これを通じた大規模化

- ・草地の生産性向上、放牧の活用、飼料用米等の国産飼料の生産・利用拡大による飼料の安定確保・コスト削減
- ・自ら生産した生乳のアイスクリーム等への加工・直販（6次産業化）による販売額の増加

(1) 土地条件の制約が小さい地域の経営モデル（主に北海道）

- ①放牧の活用による飼料費の削減や省力化を図りつつ、アイスクリーム・チーズ等の製造・直販により販売額の増加を図る家族労働主体の経営
- ②搾乳ロボット等の活用と飼料生産・調製の外部化により、家族労働時間を抑制しながらも規模拡大を図るとともに、性判別技術や受精卵移植技術の活用により、効率的な後継牛確保と収入増加に資する和子牛生産に取り組み家族労働主体の経営
- ③複数戸による協業経営の下、分業化や搾乳ロボットその他機械化等により省力化・効率化しつつ、規模拡大による販売額の増加を図る大規模法人経営

(2) 土地条件の制約が大きい地域の経営モデル（主に都府県）

- ①飼料生産・調製の外部化等により、家族労働時間を抑制しながらも規模拡大を図るとともに、地域内での耕畜連携の下、飼料用米・稲WCS等の利用、堆肥交換により、持続性を確保する家族労働主体の経営
- ②水田の集積・活用により飼料基盤を強化し、飼料費の削減を図るとともに、ヨーグルト等の製造・直販により販売額の増加を図る大規模法人経営

【参考】平成26年度第9回畜産部会（平成27年1月29日）の資料「新たな酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針の構成案」において、新たに6つの酪農経営類型が提示された。

平成26年度第9回畜産部会（平成27年1月29日）で提示された新たな6経営類型

経営類型の特徴	1			2			3			4			5			6				
	生産性の高い草地への放牧により、乳量を維持しつつ、ゆとりを確保した家族経営 (6次産業化部門)アイスクリーム等の製造・直販により販売額を増加						搾乳ロボット等により省力化・規模拡大を図るとともに、性判別技術や受精卵移植技術を活用した効率的な後継牛確保と和子牛生産を行い、収益性の向上を図る家族経営			飼料生産・調製や飼養管理の分業化・効率化を通じ、規模拡大を図る大規模法人経営			コントラクターの活用等により省力化しつつ、つなぎ飼いで可能な範囲での規模拡大を図る家族経営			搾乳ロボット等により省力化しつつ規模拡大を図るとともに、飼料用米等を活用した耕畜連携により経営の持続性を確保する家族経営			飼料用米を活用した耕畜連携により経営の持続性を確保する大規模法人経営 (6次産業化部門)チーズ等の製造・直販により販売額を増加	
立地条件	土地条件の制約が小さい地域（主として北海道）									土地条件の制約が大きい地域（主として都府県）										
土地条件	牧草地主体			畑主体			畑又は水田			畑又は水田			畑又は水田							
経営形態	家族（1戸1法人含む）			家族（1戸1法人含む）			法人			家族（1戸1法人含む）			家族（1戸1法人含む）			法人				
飼養形態	経産牛66頭			経産牛100頭			経産牛500頭			経産牛80頭			経産牛100頭			経産牛200頭				
飼養方式	つなぎパイプライン 搾乳ユニット 自動搬送装置			フリーストール アプレストパーラー 搾乳ロボット			フリーストール ローターパーラー 哺乳ロボット			つなぎパイプライン 搾乳ユニット 自動搬送装置			フリーストール アプレストパーラー 搾乳ロボット			フリーストール パラレルパーラー 哺乳ロボット				
外部化	酪農ヘルパー			公共育成牧場			公共育成牧場			公共育成牧場 酪農ヘルパー			公共育成牧場			公共育成牧場				
給与方式	分離給与			TMR給与 自動給餌機			TMR給与 自動給餌機			分離給与			TMR給与 自動給餌機			TMR給与 自動給餌機				
放牧利用	放牧利用																			